「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の 東１ 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

Copyright2013 藤井寺市観光ボランティアの会

28. 五街道の道しるべを巡り歩く　その一　「東高野街道」　前編

東高野街道は京都東寺、石清水八幡宮から高野山に参詣するための道で、生駒山麓の裾を通って、柏原市から大和川を渡り藤井寺市に入ります。その後羽曳野市から富田林市を通り、河内長野市で西高野街道と合流、高野山へ向かう約 60km の道です。

東高野街道と称されるようになったのは、弘仁７年（８１６）空海が高野山を開き、真言密教の中心となり、京都から高野山に登る本道として使われてからです。

新大和橋は明治７年（1874）に柏原村と船橋村を結んで大和川にかけられた橋です。新大和橋を渡ると藤井寺市です。

新大和橋（北から）　東１

新大和橋（南から）　東２

大和川を越えると堤防の上を南下し、学校給食センターの先を西にそれ、二重堤（善徳保堤防）の上を潮音寺・国府八幡神社に向かって進み、その後南進します。

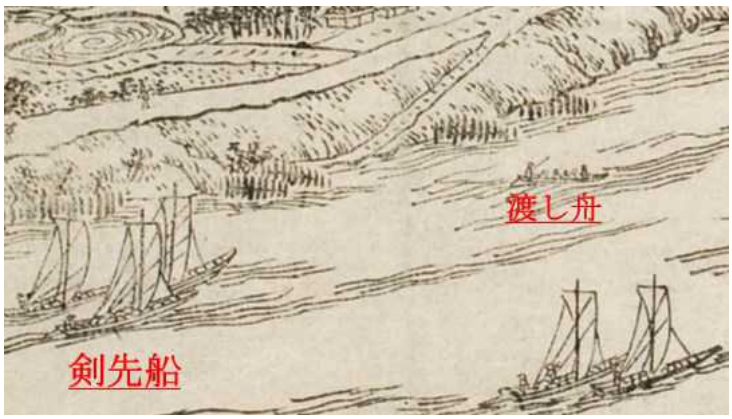
梅が園善徳保公園（右）の堤　東３

国府八幡神社・潮音寺　東４

大和川は宝永元年（1704）付替えられ、その後豪雨時に浸水害が多発し、そのため舟橋村、大井村、北条村ともに京の二条御番所（公方）へ再三願陳情し、国府村方に洪水防止の腕堤（善徳保堤防）・京樋水路が設けられました。この堤上を東高野街道が通っています。

『角川日本地名大辞典』

では、新大和橋が設置されるまでどのようにして大和川を渡河していたのでしょうか。



河内名所図会（築留）抜粋　東５

大和川筋図巻（築留）抜粋　東５

享和元年（1801）発刊の、『河内名所図会・築留』の挿絵には、帆走する剣先船（国分船）の前方に人を乗せた小舟が描かれています。また、作成年月は不明ですが、明和 7 年（1770）以降の状況を描いていると思われる『大和川筋図巻』には、左岸の舟橋村には「船乗場」、右岸の柏原村枝郷には「船着場」と書かれており、渡船にて大和川を渡っていた様子が窺えます。現在石川の堤防から善徳保の堤上が東高野街道のルートになっていますが、江戸時代は舟橋村の村内を通っていたのでしょうが、痕跡はありません。

国府八幡神社を南進すると、西から来る長尾街道と交差します。

東６

東６

西　面
正　面

右
道明寺

①　東高野街道と長尾街道との交差点東南角に残存している。道明寺方面の案内だけで、裏面及び両側面に刻銘はない。

さらに近鉄電車の踏切を、渡り南進します。大きな赤椋（あかむく）の木を過ぎると、道明寺の東門前です。

東　面	北　面	西　面	南　面
す こん田八まん 道明寺 く 高野山	左　大坂　左海道	右　柏原　京道	弘化四年末　願　小林村 十一月建立　主　木忠

東７

② もと、道明寺の東門前分岐点に立てられていたものであるが、現在は東門右手に移されている。

現西面が本来南向きであったらしい。東高野街道を北上する旅人に、柏原・京に至る街道の本通りと、左に分岐する間道について案内している。大坂・堺へは、間道を抜けて長尾街道を通ったと思われる。

弘化 4(1847)年 11 月に造立。現東面は本来北向きで、東高野街道をまっすぐ南下すれば、道明寺・誉田・高野山に至ることを示す。道明寺が現位置に移転したのは明治 5(1872)年のことで、それ以前は現道明寺天満宮の位置に所在しており、天満宮と一体であった。

東南北面	西　面
従是　一丁北　道明寺	明治九年 子九月　堂島浜米商中

東７

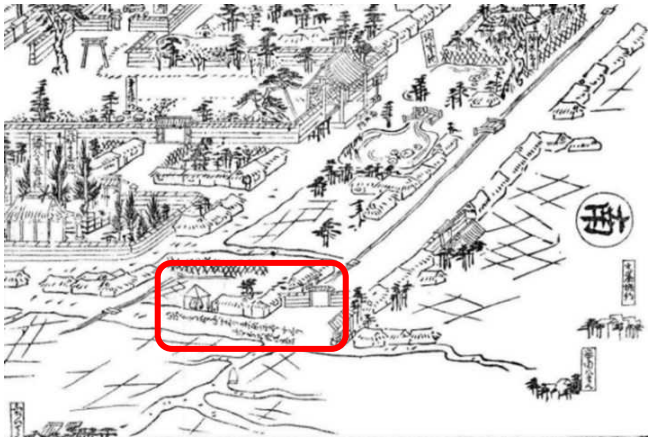
③　道明寺南門右手に立てられている道標で、文面から、もとは東高野街道沿い、道明寺より一町（約　100m）南に位置していたことがわかる。道明寺移転後の、明治　9（1876）年に造立されたものである。

道明寺を過ぎて少し南進すると、右手に『弘法大師お休み石』が祀られています。

2023 年 7 月　改修後　東８

改修前　東８

「大師堂」としてお堂の中に立てた状態で納められていたが、改修により腰掛けることができるようになりました。



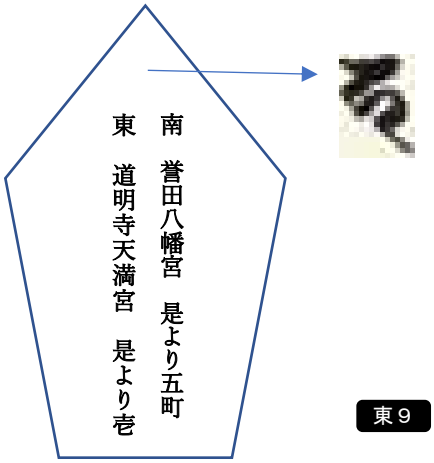
河内道明寺絵図　安永 2 年（1773）

「御門前大師御立石」拡大　東８

安永２（1773）年に描かれた『河内道明寺絵図』にお休み石のお堂と考えられる小堂が見られます。また、街道上に「此処より高野山十三り京都東寺十三り」と書かれており、この辺りが東高野街道の中間点であることが分かります。更に寛文 12（1672）年の『河州志紀郡道明寺絵図』に描かれている小川に掛けられていた「不動石橋」が、このお休み石の片面が摩耗していることから、お休み石はこの「不動石橋」だとの伝承があります。

「道明寺　弘法大師御休石の栞」

「お休み石」を過ぎると、真っ直ぐな街道が急に西に折れ、直ぐ南進しています。その左に地蔵堂が祀られています。



④　地蔵堂内に舟形浮彫地蔵があり、その光背面に道標が刻まれている。持錫地蔵の頭上には地蔵菩薩を表す種子（しゅじ）の梵字で「カ」が、向かって右側に「南　誉田八幡宮　是ヨリ五町」、左側に「東　道明寺天満宮　是ヨリ壱町」とあり、東高野街道を南下、あるいは大坂道から誉田御廟山古墳（応神天皇陵）の北を東進してきた旅人に、誉田八幡宮・道明寺天満宮への案内をする。

この後、藤井寺市域から羽曳野市域に入るが、東高野街道からチョット外れて道明寺地区を散策します。

地蔵堂から東へ 100mほど進んだ道明寺天満宮の正面に位置する所に道標があります。

西　面
左　天満宮

北　面	
右　葛井寺　こん田上□	左　玉手山　龍田□

東１０

⑤　書体は大ぶりの隷書で印象深いが、現在、東面は人家の壁に接しているため、判読しがたい。天満宮への参詣者を対象にした案内である。

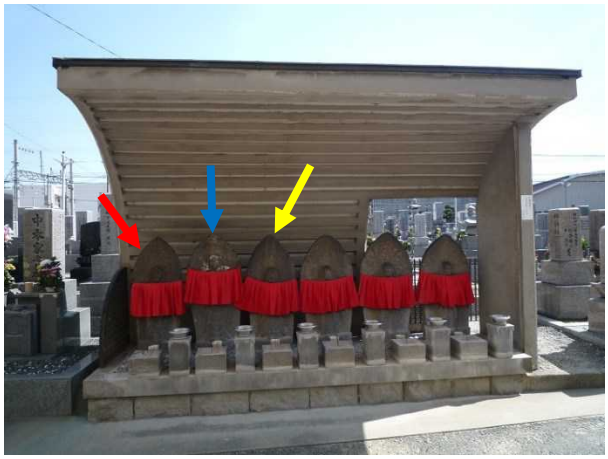
道明寺天満宮へと北へ進む、地面に何やら印が付けられています。

在りし日の南大門

東１１

　これは、かつて旧道明寺「南大門」が建っていた礎石跡で、丸い親柱二本とその前後に四本の角控柱を持った一間一戸門の四脚門で、格式の高い門といわれていました。残念ながら、車が門に衝突し平成５年（1993）12 月に消滅してしまいました。今はその位置に印が残っています。

先ほどの⑤の道標から東へ進むと「道明寺地区霊園」があり、その中に六地蔵が祀られています。向かって左から３体の地蔵に刻銘が施されています。



西　藤井寺□□□□□町	東　道明寺天満宮是ヨリ三町

寛政七年乙卯四月十二日釈信西
左　玉手山　国　分　道

右　玉手山　是ヨリ三町	左　南都　国　分　道

東１２

⑥　もと路傍に立っていたものが、いつの時代にか寄せ集められ、六地蔵の一部として墓地に安置されたようである。刻銘の内容から、長尾街道沿いに所在していた可能性が高い。

後編につづく　　（2024.3　中村）